

## 岐阜県における2012/13シーズンのインフルエンザの流行について

岐阜県内の2012/13シーズン（以下「昨シーズン」という。）におけるインフルエンザ流行状況について、感染症発生動向調査、岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス及び学校欠席者情報システムにより得られたデータを解析し、取りまとめました。

### 【概要】

- (1) 昨シーズンの定点当たりのインフルエンザ患者数は、第49週（12/3～12/9）に流行入り（定点当たり患者数1超え）し、第5週（1/28～2/3）にピークを迎え、2011/12シーズンと概ね同時期となりました。ピーク時の患者数は過去10年で最高となった2011/12シーズンよりも大幅に減少して2010/11シーズン並みとなり、シーズンを通した患者数は、2011/12、2010/11シーズン並みとなりました。
- (2) 2011/12シーズンに続き、シーズン前半はA香港(H3N2)型が流行の中心となりましたが、シーズン後半には、B型も一定程度流行しました。その結果、第8週から第11週にかけては、A型の減少とB型の増加が拮抗し、全体としてインフルエンザ患者数の減少が緩やかになりました。
- (3) 年齢層別の患者数の推移をみると、ピークの時期に若干の幅があり、若者（15～29歳）では第4週にピークを迎え、高齢者（70歳以上）では第6週にピークが来ていました。また、子ども（0～14歳）では第8週以降横ばい又は増加となり、特に5～9歳では第11週に2回目のピークを迎えました。これは、5～9歳を中心とした子どもの間でB型の患者数が増加したためとみられます。
- (4) 小中高校・特別支援学校で出席停止となった児童生徒の数は、2011/12シーズンから大きく減少し、特にピーク時の出席停止の数は半分近くに減少しました。一方、学級、学年、学校閉鎖のいずれかを行った学校数は、若干の減少となりました。
- (5) 近年、A型の大流行の年と、シーズン後半に子どもの間でB型が流行する年が交互に現れており、流行の立ち上がりの急激な患者数の増加とともに、ピーク後の別の型の流行にも注意を払い、注意喚起していく必要があると考えられます。

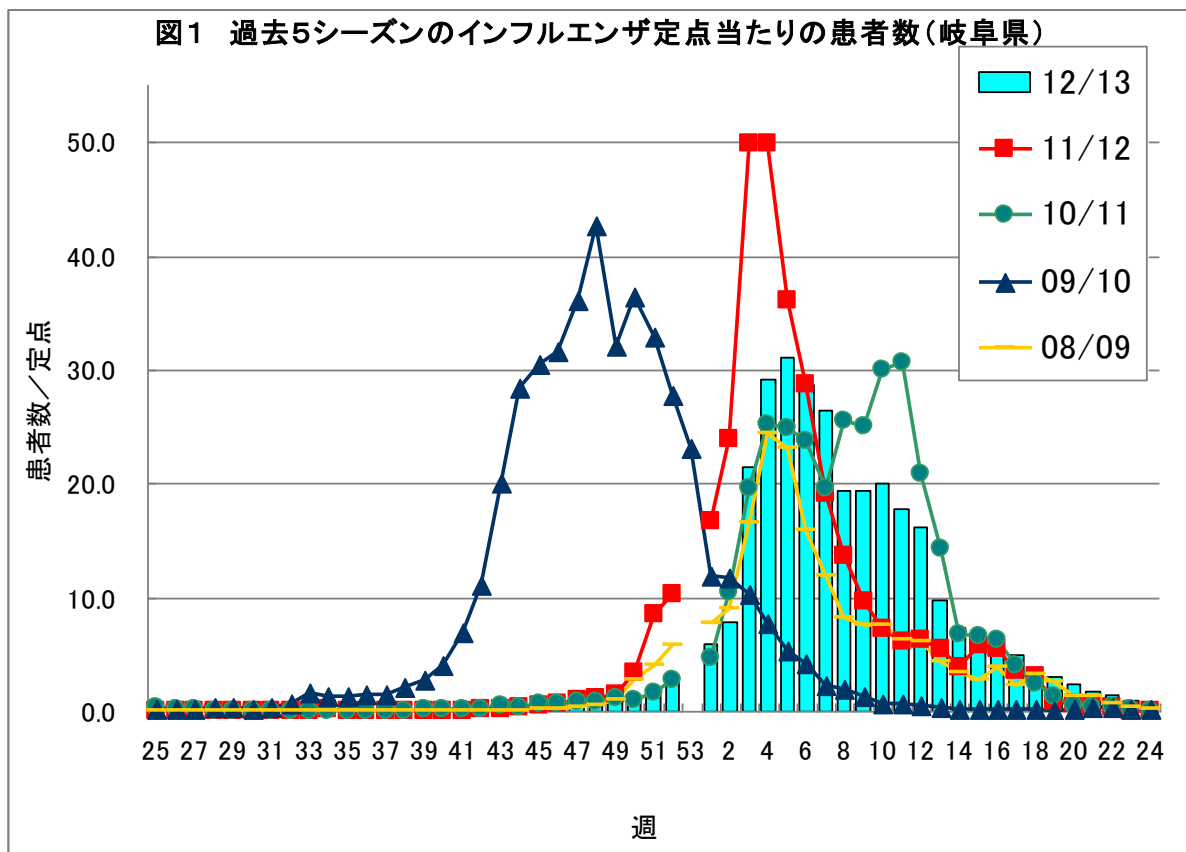
## 1 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査とは、感染症の発生状況を把握、分析し、情報提供することにより、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として、国、全国すべての都道府県及び保健所を設置する市（特別区を含む）が行っている調査事業です。

医師等に全数届出を求める「全数把握対象疾患」と指定届出機関（定点医療機関）において診断された患者の報告を求める「定点把握対象疾患」が定められており、インフルエンザについては「定点把握対象疾患」とされています。

昨シーズンにおいて、岐阜県内の定点医療機関（87 定点）からのインフルエンザ患者の報告数は、2012 年第 49 週（12 月 3 日～12 月 9 日）に定点当たり 1.0 人を超えて流行が始まり、2013 年第 3 週（1 月 14 日～1 月 20 日）には定点当たり 10.0 人を超え、同年第 5 週（1 月 28 日～2 月 3 日）にピークを迎えました。

2011/12 シーズンは、ピーク時の感染者数が 1999 年以来の最高値(49.9)となりましたが、昨シーズンのピーク(31.0)は 2010/11 シーズン並みとなりました。また、ピーク後の患者数の減少ペースは鈍く、定点当たり 10.0 を下回ったのはピークから 8 週後の第 13 週となりました（図 1）。

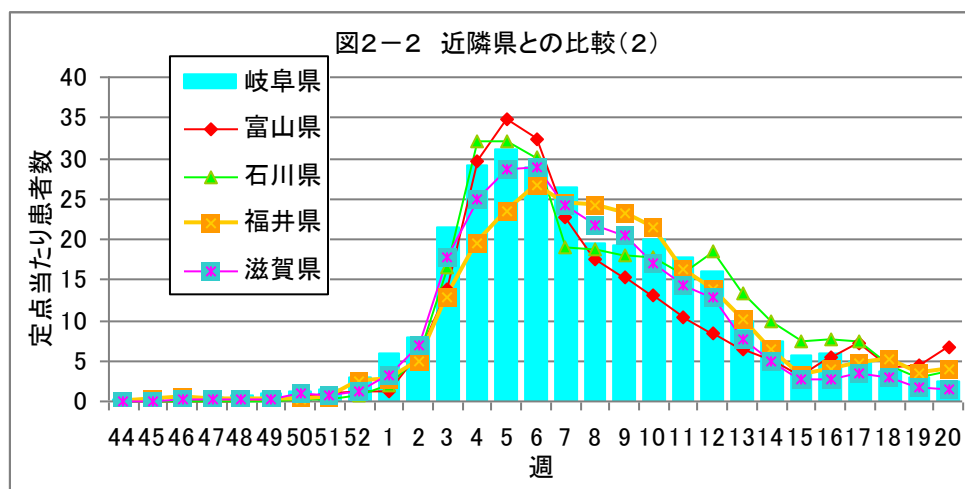
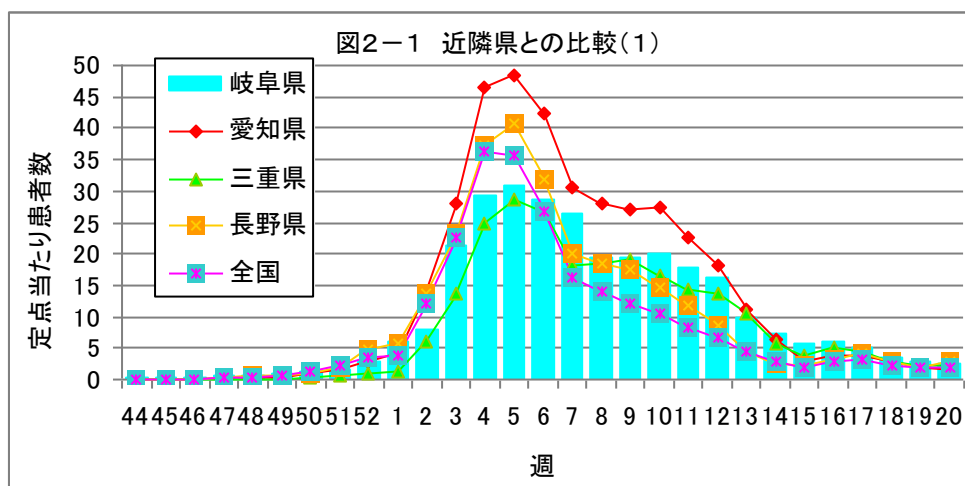


過去 10 シーズンの定点当たりの患者数を比較すると、ピーク値、流行期間（1.0 人以上の期間）の延べ患者数とも、2010/2011 シーズンに近い規模になっています（表 1）。

表1 県内インフルエンザの流行状況(10シーズン)

患者数定点当たり1.0人を超えた最初の週 (A)	患者数定点当たり1.0人を超えた最後の週 (B)	流行期間 (B-A)	定点当たり患者数	
			ピーク時	期間内計
2004年第1週 (12月29日～1月4日)	2004年第13週 (3月22日～3月28日)	13週	30.6	138.8
2004年第53週 (12月27日～1月2日)	2005年第18週 (5月2日～5月8日)	19週	36.3	270.3
2005年第51週 (12月19日～12月25日)	2006年第17週 (4月24日～4月30日)	19週	32.4	188.8
2006年第50週 (12月11日～12月17日)	2007年第19週 (5月7日～5月13日)	22週	20.3	192.1
2007年第49週 (12月3日～12月9日)	2008年第13週 (3月24日～3月30日)	17週	19.4	120.3
2008年第50週 (12月8日～12月14日)	2009年第21週 (5月18日～5月24日)	24週	24.4	182.0
2009年第33週 (8月10日～8月16日)	2010年第9週 (3月1日～3月7日)	30週	42.6	431.6
2010年第49週 (12月6日～12月12日)	2011年第19週 (5月9日～5月15日)	23週	30.6	308.1
2011年第48週 (11月28日～12月4日)	2012年第18週 (4月30日～5月6日)	23週	49.9	319.7
2012年第49週 (12月3日～12月9日)	2013年第22週 (5月27日～6月2日)	26週	31.0	296.4

近隣県（富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、三重県、滋賀県）の流行状況を見ると、概ね愛知県、三重県と相似形となっています。これら東海3県のピーク（第5週）は全国よりも1週遅く、ピーク後の減少ペースが全国平均よりも緩やかとなっている点で共通しています。また、北陸3県では、それぞれ異なった推移となっています（図2）。



## 2 岐阜県リアルタイム感染症サーベイランス

岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスシステムは、「岐阜県新型インフルエンザ医療保健福祉協議会」からの答申を受け、岐阜県医師会、岐阜県、岐阜県教育委員会の協力により構築し、2009年9月25日より運用を開始した岐阜県独自のシステムです。

このシステムでは、県内311（2012.3.26現在）の医療機関からのインフルエンザ患者発生情報（型別、年齢階層別、性別の情報を含む）とともに、県内のすべての小・中・高等学校からの欠席・休業の情報を、①全県レベル、②5圏域レベル、③24ブロックレベルに分けて地図上に表示しています。

流行時には毎日1回（日曜日を除く）20時20分に、これらの情報を最新のものに更新しました。なお、患者報告数が少ない時期には、毎週月曜日20時20分に前週分のデータをまとめて更新しています。

このシステムにより把握した第35週（8月27日）～第20週（5月19日）のインフルエンザ発生状況のデータについて、解析しました。

### (1) 流行状況

県内定点医療機関からのインフルエンザ患者の報告数は、A型29,057人（前年比-12,011人）、B型15,145人（同+9,219人）、その他（症状診断）11,509人（同+1,169人）、合計55,711人（同-1,623人）であり、前のシーズンの同期間と比較して2.8%減となりました。

週別の患者発生数は、感染症発生動向調査の結果とほぼ同様の増減を示し、第5週（1月28日～2月3日）をピークとする曲線となりました（図3）。

定点当たり患者数が1.0人を上回ったのは第50週（12月10日～16日）で感染症発生動向調査より1週遅く、下回ったのは第22週（5月27日～6月2日）で感染症発生動向調査と同じ週でした。

型別の推移を見ると、シーズン前半でA型が流行し、シーズンの後半（2～3月）ではB型がやや増加したため、全体で見ると2～3月の減少ペースが緩やかになっています。

同期間の患者の男女別発生数は男28,679人、女27,032人であり、年齢層別の患者発生状況では、20歳未満が51.6%を占めていました（表2）。

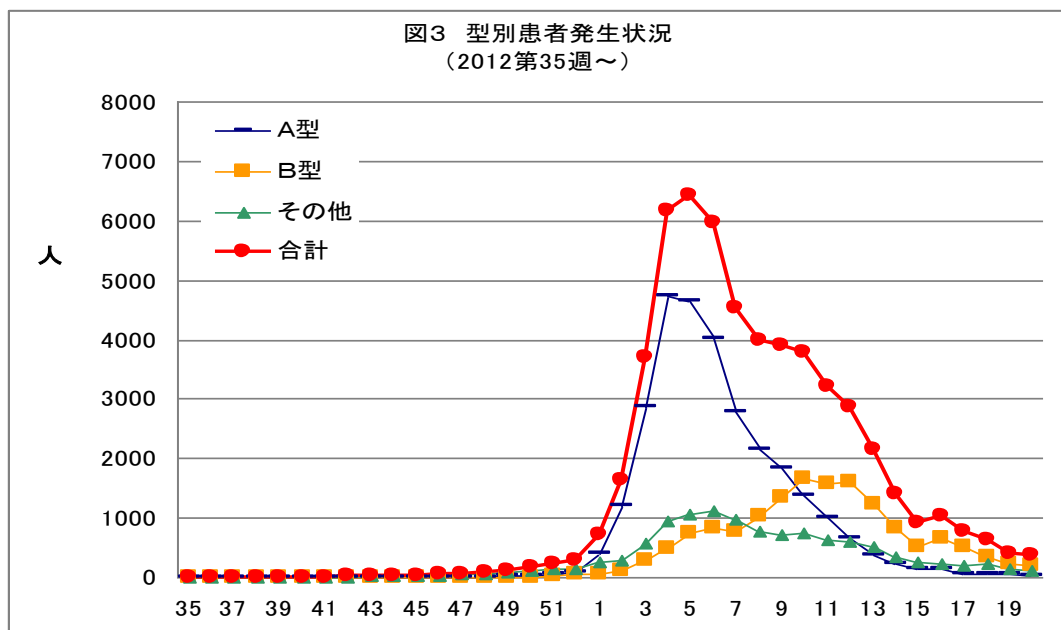


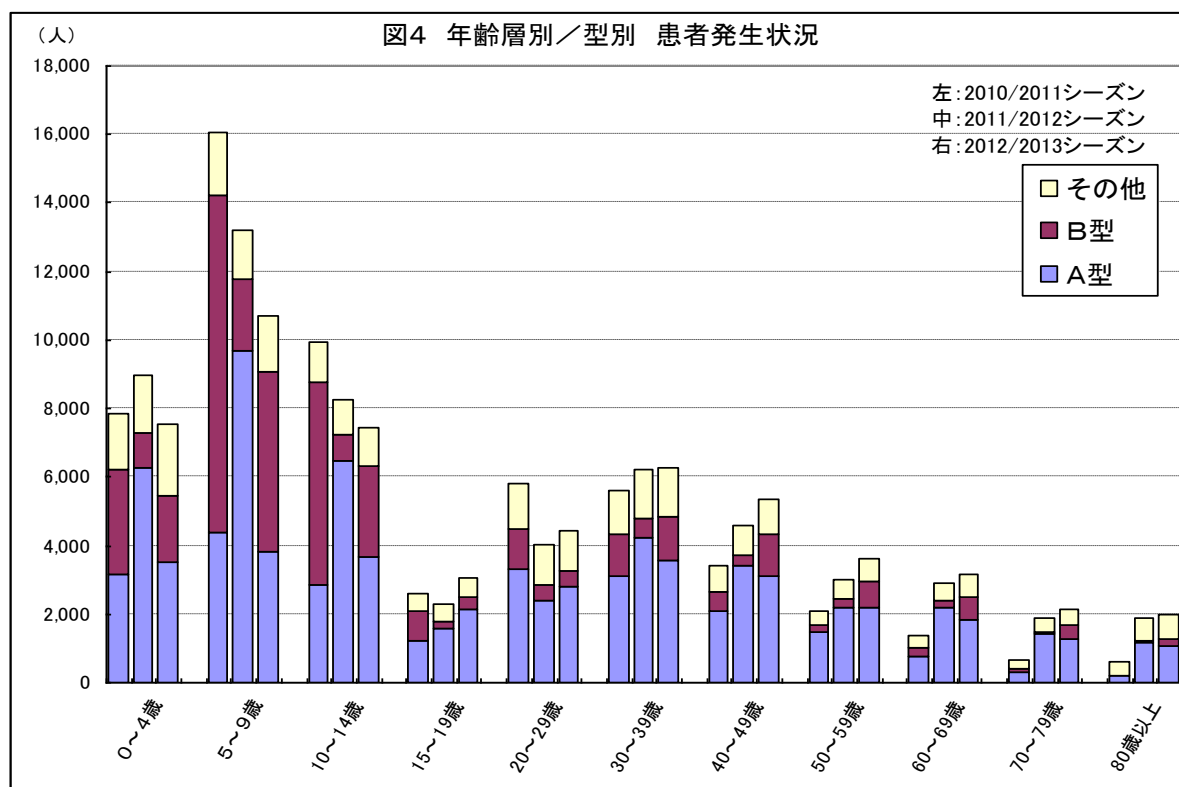
表2 年齢別性別インフルエンザ患者発生状況  
(2012年第35週～2013年第20週)

	総計	20歳未満					小計
		1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	
男	28,679	286	3,757	5,697	3,928	1,785	15,453
女	27,032	269	3,240	5,010	3,501	1,290	13,310
計	55,711	555	6,997	10,707	7,429	3,075	28,763
(%)	100.0	1.0	12.6	19.2	13.3	5.5	51.6

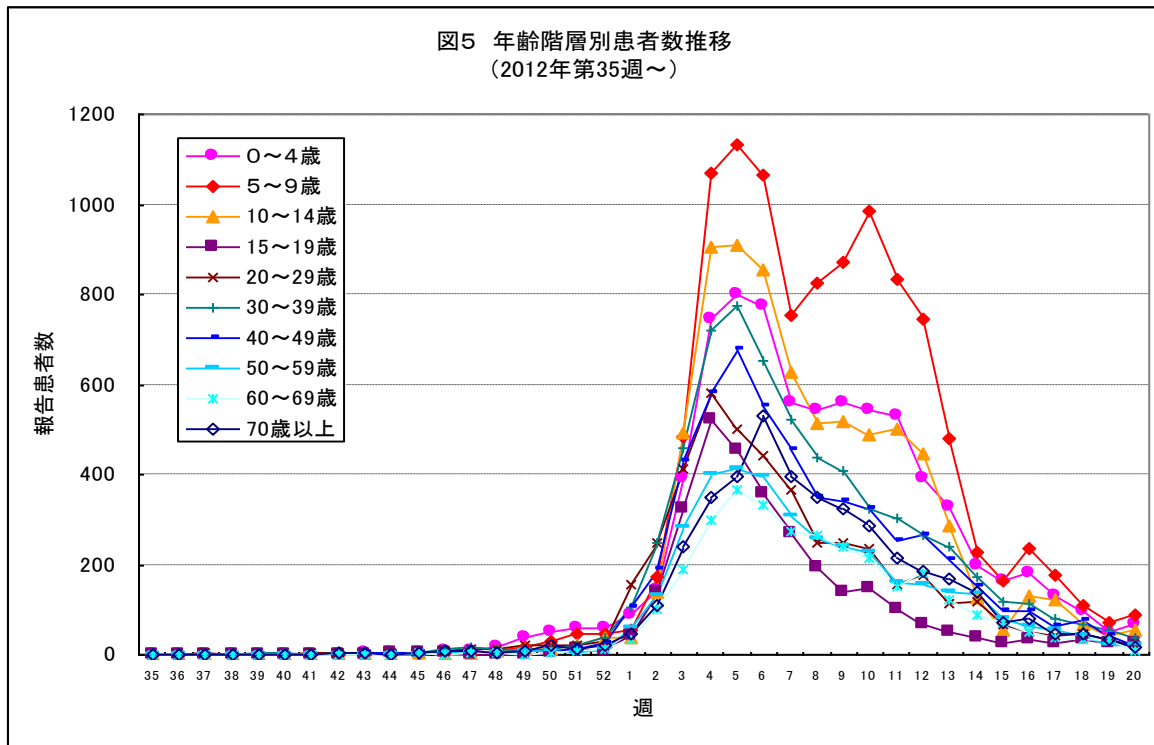
20歳以上							
20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	小計
2,229	3,039	2,732	1,789	1,516	1,135	786	13,226
2,194	3,215	2,628	1,842	1,628	1,028	1,187	13,722
4,423	6,254	5,360	3,631	3,144	2,163	1,973	26,948

インフルエンザ患者の年齢別発生状況を前のシーズンと比較すると、14歳以下では減少、15歳以上では増加しました(図4)。

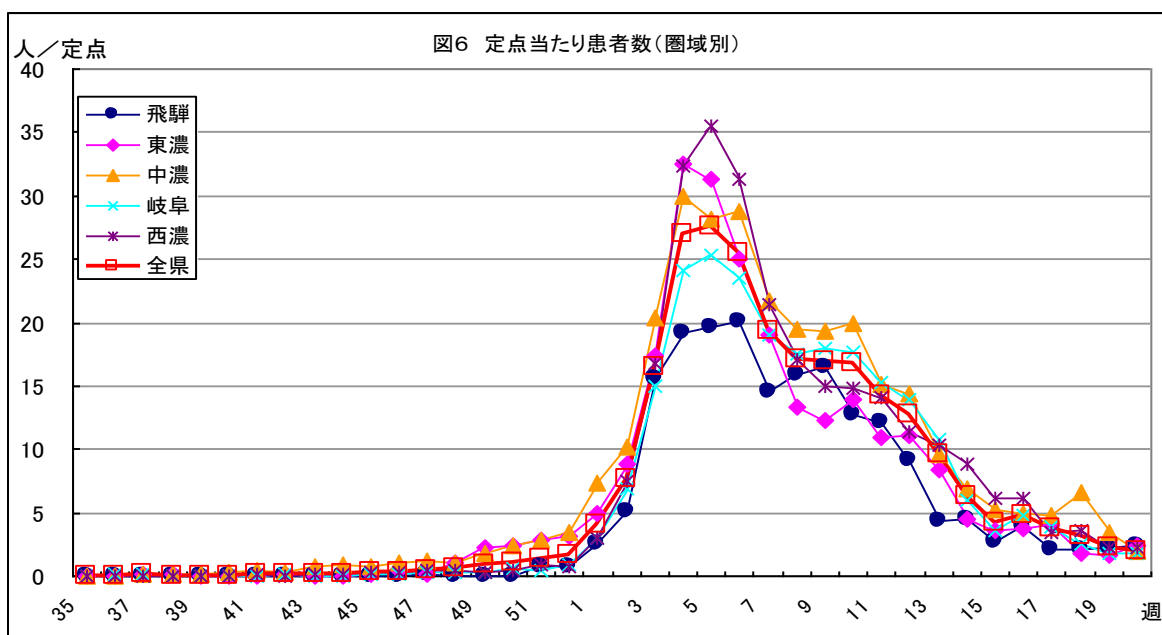
型別に見ると、若年層でB型の患者数の割合が多かった点で、2010/11シーズンと似た傾向になりましたが、2010/11シーズンほど若年層のB型の流行は多くなく、逆に、中高年では、2010/11シーズンよりもB型の割合が高くなりました。



年齢層別、週別の発生状況は、2011/12 シーズンが各年齢層とも概ね第3週～第4週がピークとなる一峰性だったのに対し、昨シーズンは、年齢層ごとに若干のばらつきがあり、15～29歳では第4週に、70歳以上では第6週に、他の年齢層では第5週にピークが来ていました。また、5～9歳では、B型の流行とみられる2回目のピークが出ています（図5）。



圏域別の推移をみると、2011/12 シーズンは、東濃、飛騨が他と異なる推移となっていたのに対し、昨シーズンは、ピークの高さは異なるものの、各圏域とも似たような増減傾向を示しました（図6）。



※人口や定点数が圏域ごとに異なるため、患者数を単純に比較はできません。

【受診患者全数把握による検証】

1 方法

岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスシステムの定点（以下「拡大定点」という。）並びに感染症動向調査の87定点（以下「行政定点」という。）における患者数が、県全体の受診患者総数の何%に相当するのかを検証する目的で、県内の全医療機関を対象とし、1月28日～2月3日（第5週）の1週間の受診患者数をインターネットまたはFAXで調査しました。

2 結果

保健所、保健センター、休業中を除く県下全1,615医療機関（内科又は小児科の標榜は1,246医療機関）のうち1,225医療機関（75.9%）から回答がありました。未回答の390施設のうち、内科又は小児科の標榜は249施設であり、これらの施設には福祉施設・老人保健施設内診療所（76施設）、事業所内診療所・健診施設・巡回診療所（25施設）が含まれており、これらを除くと、内科、小児科の87.1%から回答を得られたこととなります。

調査による受診患者数は17,905人であり、調査期間中に岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスにより報告のあった233定点（拡大定点）の患者数は6,442人でした。この結果から、拡大定点の患者抽出率（拡大定点における受診患者数/受診患者数）は36.0%であることが分かりました。

また、調査期間中の行政定点の患者数は2,834人で、行政定点の患者抽出率（行政定点における受診患者数/受診患者数）は15.8%となりました。

定点における年齢層別インフルエンザ患者数と抽出率

（上段：2013年第5週/中段：2012年第5週/下段：2011年第5週）

年 齢	0-6歳	7-14歳	15-64歳	65歳以上	合 計
拡大定点における患者数	1,327	1,514	3,045	556	6,442
	1,911	1,840	2,766	673	7,190
	1,233	1,475	2,408	145	5,261
行政定点における患者数	738	680	1,179	237	2,834
	1,027	844	1,052	352	3,275
	683	640	882	73	2,278
全数調査で把握した患者数*	2,912	4,185	9,222	1,586	17,905
	4,552	5,480	8,680	1,842	20,557
	2,743	3,769	7,308	444	14,264
拡大定点の患者抽出率	45.6%	36.2%	33.0%	35.1%	36.0%
	42.1%	33.7%	32.0%	36.8%	35.1%
	45.0%	39.2%	33.0%	32.7%	36.9%
行政定点の患者抽出率	25.3%	16.2%	12.8%	14.9%	15.8%
	22.6%	15.4%	12.2%	19.2%	16.0%
	24.9%	17.0%	12.2%	16.4%	16.0%

○ 受診患者数の推定

2012年第35週から2013年第20週まで（38週間）における拡大定点の累積患者数は55,711人であり、これを調査結果から得られた患者抽出率の0.360で除すと、この間の県内の受診患者の推定値は約155,000人となり、岐阜県の全人口2,061,481人（H25.2.1現在）の約7.5%に相当しました。

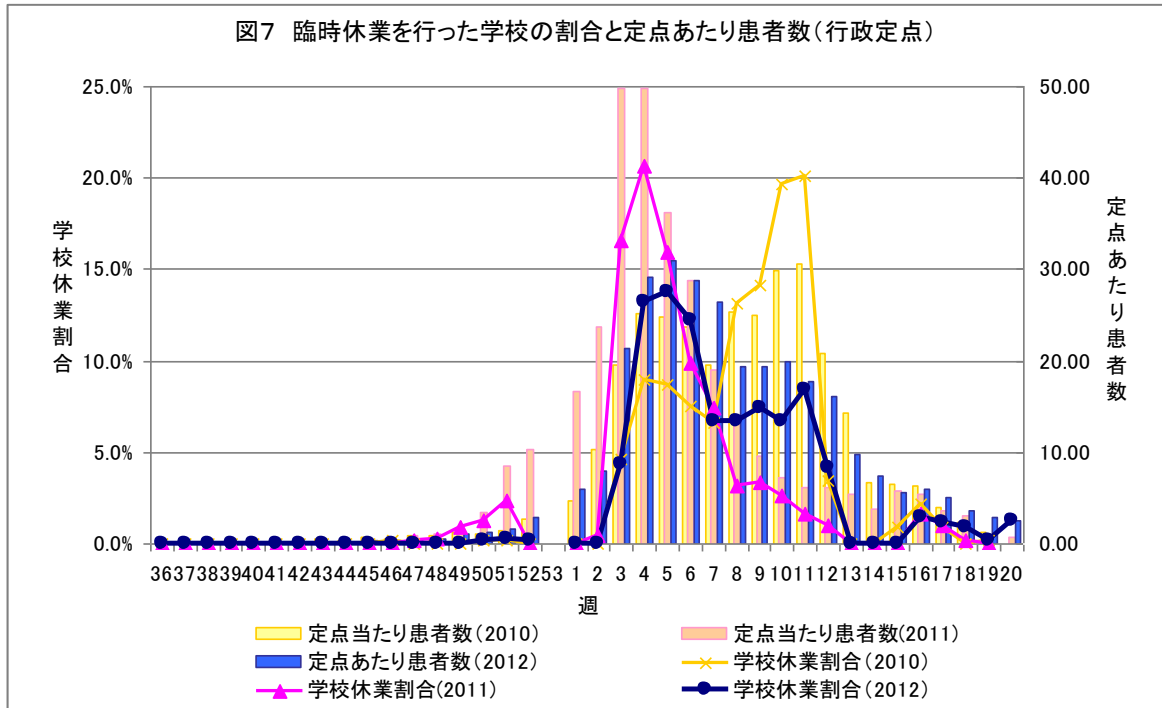
なお、2011年第35週から2012年第20週までと2010年第36週から2011年第21週までについて同様に計算すると、それぞれ約163,000人（約7.9%）、約152,000人（約7.3%）となります。

### 3 学校サーベイランス

昨シーズン（2012年第36週～2013年第21週）、県内の小中・高校・特別支援学校において、医師からインフルエンザとして診断があり、出席停止となった児童生徒の数<sup>※</sup>は34,847人で、2011/12シーズン（41,314人）と比較して15.6%減少しました。

また、ピーク週の出席停止者数も2011/12シーズンの半数近くに減少しました（図7）。

※学校欠席者情報収集システム入力値（8月16日現在）の集計。



岐阜県内のすべての小中・高校・特別支援学校 683 校（分校を含む）のうち、学級、学年、学校閉鎖のいずれかを行ったのは、323 校（47.4%）であり、2011/12シーズンの338校（49.1%）から減少し、2年連続の減少となりました（表3）。

表3 インフルエンザにより閉鎖措置した学校数

H24.12.10～H25.5.30

校種	閉鎖措置を行った学校数						学校数	割合
	岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	合計		
小学校	78	50	55	29	15	227	377	60.2%
中学校	28	10	18	20	5	81	197	41.1%
高等学校(全日制)	3	0	2	5	2	12	78	15.4%
高等学校(定時制)	0	0	0	0	0	0	11	0.0%
特別支援学校	2	0	1	0	0	3	18	16.7%
合計	111	60	76	54	22	323	681	47.4%
学校数	198	132	153	126	72	681		
割合	56.1%	45.5%	49.7%	42.9%	30.6%	47.4%		

※学校数は平成24年度



#### 4 入院サーベイランス

感染症発生動向調査における「インフルエンザ入院サーベイランス」が2011/12シーズンから開始され、県内5医療機関（基幹定点）からインフルエンザによる入院患者及びその状態が報告されています。

表4 インフルエンザ年齢層別入院患者数（5基幹定点）

年齢	入院者数	2012年第36週～2013年第21週		
		状態（重複有）		
		ICU入室	人工呼吸器装着	頭部CT，頭部MRI，脳波検査のいずれか
1歳未満	15			
1～4歳	42			7
5～9歳	15			1
10～14歳	7			1
15～19歳	1			
20～39歳	6			1
40～59歳	1			
60～79歳	14	1	1	2
80歳以上	19	1		3
合計	120	2	1	15

年齢	入院者数	2011年第36週～2012年第21週		
		状態（重複有）		
		ICU入室	人工呼吸器装着	頭部CT，頭部MRI，脳波検査のいずれか
1歳未満	17			
1～4歳	42			7
5～9歳	24			2
10～14歳	9			1
15～19歳	1			
20～39歳	6	1		
40～59歳	5			
60～79歳	26	1	1	4
80歳以上	26	2		5
合計	156	4	1	19

## 5 ウイルスサーベイランス

保健環境研究所及び岐阜市衛生試験所において、インフルエンザウイルスの抗原性等の検査を行い、昨シーズン（2012年第36週～2013年第21週）は73例の検体からインフルエンザウイルスが検出されました（図8～10）。

昨年引き続き、確認されたウイルス亜型の多くはA(H3N2)でしたが、B型の割合が増え、昨シーズン確認されなかったA(H1N1 2009)も少数ながら確認されました。

